

ホームランの人生論

今年、米大リーグ・エンゼルスの大谷祥平選手の活躍が世間を賑わせました。投手で十勝、ホームラン王(四十四号)も獲得する二刀流での実績は素晴らしいものだと思います。

野球では、私は何と言つてもホームランが面白いと思います。ホームランにも色々あって、打った瞬間、「ホームランだ」とわかる特大のホームランもあれば、最後まで全力疾走しなければならぬランニング・ホームランもあり、途中ですとホームランは

ムランとわかるものもあるのです。打った瞬間はホームランとは思えずに、全力疾走で一塁ベースを回ります。そして、二塁ベース付近でホームランとわかり、あとは三塁ベースをゆっくり回り、最後は、自分がホーム・ベースを踏めば得点になることがわかっています

ので、喜びをもって三塁ベースからホーム・ベースに走るのです。それがサヨナラ・ホームランなら喜びはなおさらではないでしょうか。

「まんだら人生論」という本に、人生をホームランに例えた話があります。『人生で言うなら、一塁ベースを駆け抜けるころは、人生の青春時代です。そのころは宗教心も持っておらず、がむしゃらに生きて、人生は頑張りだと思っ

ています。二塁ベース近くの中年になって、仏教に出会い、それがホームランだと気付くのです。ゆっくりと走つても、必ずホーム・ベースを踏める。ホーム・ベースはお浄土、すなわちほとけの国です。しかし、まだ全力疾走の癖が抜け切れないので、ペースは速めです。それでも、必ずお浄土に往けることがわかっていますから、

過ごしていききたいものです。

「まんだら人生論」という本に、人生をホームランに例えた話があります。『人生で言うなら、一塁ベースを駆け抜けるころは、人生の青春時代です。そのころは宗教心も持っておらず、がむしゃらに生きて、人生は頑張りだと思っ

ています。二塁ベース近くの中年になって、仏教に出会い、それがホームランだと気付くのです。ゆっくりと走つても、必ずホーム・ベースを踏める。ホーム・ベースはお浄土、すなわちほとけの国です。しかし、まだ全力疾走の癖が抜け切れないので、ペースは速めです。それでも、必ずお浄土に往けることがわかっていますから、

過ごしていききたいものです。

「エンジヨイエイジング」(その年齢を楽しむ)という考え方もあります。元気に今を

過ごしていききたいものです。

「エンジヨイエイジング」(その年齢を楽しむ)という考え方もあります。元気に今を

過ごしていききたいものです。